

復 命 書

静政会

平成 18 年 11 月 7 日

会長 伊東稔浩様

議員名 佐藤成子

下記の通り政務調査費による視察を実施しましたので報告いたします。

1. 日程 平成 18 年 10 月 15 日（日）～10 月 22 日（日）
2. 視察国 フィンランド（ヘルシンキ）スウェーデン（ストックホルム）
3. 視察内容 北欧の教育・福祉について

《はじめに》

日本教育新聞社主催の「教育ソリューションフェア 2006」（7 / 25 開催）のセミナーに参加した際、パネラーの日本フィンランドセンター所長のヘイキ・マキパー氏の話伺う機会があった。フィンランドがいかにも、国策として、教育にお金をかけているか。また、OECD 学習到達度調査（PISA）の順位が何故、世界 1 であるかを熱く語ったのを聞いて、その裏づけや、その国に実際出向き、その実態、子どもたちの学校での姿はどんな様子か知りたいと思い今回の視察を計画しました。

日程に沿って、視察先での研修内容や感想など報告します。

10 月 16 日

Helsingin Seniorisaatio パキラ老人ホーム（民間高齢者施設）

Arja Tolvanen アルヤ・トルベンネンケア長

少し郊外ではあったが、自然環境も良く、明るい建物。パキラコテイ・オスマンコテイ・マリアンコテイ・カーマルコテイ・アルテイコテイの5つの施設が点在する民間の施設。そのひとつ、パキラコテイ（パキラの家）を訪問した。

共同空間の食堂やリビングなど大きな窓があり明るい雰囲気、とてもオープンな感じ。皆私服を着用し、自宅で生活している様に生活できるように、自宅から使い慣れた家具や小物などを持ち込んでいる。認知症の人達のグループホーム。

通所サービス・通所認知症サービスの施設が併設されている。

現在 746 人入所していて、そのうち 708 人が、長期入所者、ほとんどが痴呆の人達自宅療養（自宅で暮らす）を長くし、できるだけ入所しない、ショートスティやサービスにする方向へ

利用者の平均年齢は 85.5 歳。85 歳～94 歳が一番多く 46.1%。痴呆症は 65 歳～74 歳が多く長生きできない。

54 歳で入所の痴呆症の人は 3 年で亡くなった。

圧倒的に女性が多い

フィンランドの法律で、1 人の患者に 0.6 人の看護・ケアの人が対応すると決められている

（勤務は 3 交替で対応している）

施設の中での、リハビリや訓練プログラムに沿って、手で物を作ったり肉体的トレーニングが行われている。注目すべきは、足のケアで、歩くために靴の選定などプロの指導がある。

現在パキラは、市と契約によって、244 名の入所者を受け入れている。ベットの空きが出ない様に市と契約しているのが特徴

基本的には自宅を改善したり、生活用具の貸与を受けながら、自宅でサービスを受けるような施策

どうしても自宅でのケアでは無理の場合（要介護の人）は、入所を決定する。それが SAS（施設入所判定会）である

医師、家族、ソーシャルワーカー、ホームヘルパーで検討し 1 番適当な施設に入所を決める。重要度優先で決定する。患者に質問などをしながら 1～5 段階までの症状分析で、入所を決定していく方法は、日本とまったく同様だ（週 1 回ほど開催）日本の立川市にあるキートスホームはこの施設をモデルに開設されたもの

1 日の費用は、平均 126 €（1 €155 円）

たとえば、年金などで支払えない場合でも、市町村が責任を取らなければならない。

また、所持金の 20% は手元に残しての支払いで良い（法律で決められている）

今年の 5 施設の予算のうち、3000 万 € が市から支払われることになっている（それだけのベット数を市が確保している）

徘徊する人については、それぞれ理由があるので、それらの人の経歴を知るべきだ。

グループ同室ができないので、スタッフを多くするなどの対応が必要

病院の看護師と介護士は、ベースは同じだが、看護師のレベルは高い。施設で看護師は働きたがらない。外国から医師志望で来てなれずに、看護師になるくらいだ

アルヤ・トルベンネンさんの弁

高齢者は病気ではない。人生の最後の最後の質を高めていきたい。病院じゃないので、ベットから起きて、アクセサリーをつけ、髪の手入れをし、足のケアをして、自分の家となるべく近い状態で過ごせるようにしたい。ずーと自宅で過ごせるなら良いけど、それが不可能なことならね。。

雑感

いずこも同じで、条件があまりよくない施設での介護の仕事はあまり人気がないようだ。学生の実践の場として提供したりするなど人材確保に苦労していた。アリアさんは、看護師とセラピーの資格保持者。レベルの高いはつらつ管理者だ。

10月17日

Viikki Teacher Training School

ヘルシンキ国立教育大学附属学校 Soili Mynttinen

enn ソイリムンテニン校長

国立ヘルシンキ大学の敷地内に幼稚園、小学校中学校、高等学校が、通路のように配置されて一大教育エリアになっている。

ベーシックスクール義務教育 6年間（7歳～12歳）初等部（360人） 3年間（13歳～15歳）中等部（290人）高校（240人）

大学の付属で、市内の決まった所から通学

質の高い生徒が集まっている

シベリウス高校のように、運動や音楽に特化した高校もある

年間 190日間の通学日数

小学校 1時間 75分の授業

5時限目の前におやつタイムがある

ビュフェ形式の学食がある

小学校の 15~ 20%はついていけない生徒
約 20~ 25%がスペシャルティーチャーの指導を受ける
9 年生が 1 番スペシャルティーチャーの指導を受け、良い成績で卒業
教育者に対して、ベース的には範囲が与えられるが、どのような方法で教えるか計画は各校でやる
国の方針、文部省、教育庁のフレームの範囲の中で独自性を出している
教育はすべて無料、授業料はもとより、文房具、教材も提供
国立ティーチャートレーニングスクールに 1 年間通う、長い期間の教育実習が可能である
教師のレベルが高い。ほとんどが大学院卒である
教師に適さない人は教師にならない。養成学校に進む段階で切られていく
1 クラスの人数は 20 人から 26 人くらい
クラス所属はなく、小学生も大学生のように教室を移動する。荷物は、自分のロッカーに入れておく
集中できない子を引きつけるのは先生の力
国語の授業で、歴史の事実を扱った素材を使って手紙を書かせていた。これもフィンランドメソッドなのか？
何故か教室すべてに鍵がかかっていた
選択授業は本格的。楽器を作ったり、バンド演奏したりなどなど

雑感

あどけない小学生のまなざし、世界 1 は輝いていました。とても素直な感じでした。授業中はとても静かで、いじめなどなさそう。中学生の技術の選択はまさに 1 対 1 の指導でした。驚きです。

10 月 18 日

Social Services Departmentt ヘル

シンキ市立高齢者サービス局 Anneli Halonen ア

ネエリ

ハロネンアドバイザー

ソーシャルサービス部・高齢者開発のスタッフ

市内に 4 人いるうちの 1 人

老人は 65 歳以上

2010~2030 年 85 歳以上が増えていく、サービスをどのように提供していくか開発していかなければならない

人生を楽しみながら、他の人とかかわりながら安全に年を重ねていけることが、ビジョン

在宅、デー、施設サービス、補助金制度などいろいろ提供

サービスのための情報センターが市内に東西南北 4 箇所ある

ヒヤリング後、どんなサービスが必要か検討し対応（法律改正で、80 歳も必要）

緊急なら 7 日以内に対応

市内に 11 箇所高齢者が 1 日楽しめる老人福祉センターの施設がある

デーサービスなども車椅子用タクシーで行ける施設が市内に 18 箇所あり、

1 日 12€

健康サービスセンターも 5 箇所

2006 年度 サービスホーム利用者 2500 人

老人ホームは 2350 人。75 歳以上の 87% が在宅ケア、在宅介護の目標は 90% まで高めたい、残りの 10% を 24 時間対応にしたい

2006 年市議会が決定した高齢者プログラム

老化予防、筋肉トレーニングなど生活強化

在宅のサポート、家の改修バリアフリー

市立以外の民間活用

24 時間ケアの開発

スタッフなど人材確保、定職

他の市町村との協力と競争

プログラムへの投資

費用コントロール、予算の確保

雑感

25 倍すると日本と比較できる。在宅介護 90% にするためには、外来開発が必要で新しい対応が必要。日本はまだまだだ。

10 月 19 日

Finish National Board Of Education 国立教育長

Irmeli Halinen イルメルハルネル教育長

こぎれいな事務室、コーヒーとケーキ付のおもてなしでのヒヤリング、このスタイルがスタンダードなのだそうだ。

一般の教師、校長、研究職、行政の経験もあって、現在教育長。日本では考えられない人事配置だ

国会、文部省、教育省。県、市町村、学校と組織図がはっきりしている

教育省は先生のトレーニングを行う。研修費は無料

県とのかかわりはあまり無く、市町村(地域)のフレームの中で、どのように計画を進めるかが大事

市町村に先生方をコントロールするシステムがない

教育の質は国レベルで考える。

高校卒業試験は全県レベルで実施

先生はフレームから外れない限り、何を使ってどう教えるか、個人に負かされている。時間も自由、先生の自主性に任されている

教える権利の確保

先生の多くはマスターコースを卒業している

職員室などは無くすべて個室

就学前、親は幼稚園などに入れる権利がある

教育の質が高い

幼稚園などは福祉省

小学校の前97%が行く

小学校前のプログラムがあり、教えを慣れさせていく為の教育

ベーシックスクールは9年間だが、10年目に点数が少ない生徒のために1年あり、スペシャルティーチャーが教育に当たります。

子どもは一人ひとり必ず力がある。自信を持って卒業してほしいので、この1年で、自信を育てる

教育の力とは、読み、算数、問題解決で、全国的にレベルの差がないこと

M i k s i ミクシイ(何故?)で、生きた学力をつけていく

教育省のトレーニングは、毎年幅広くプログラムの計画をたてること

たとえば、情報社会をどう教えるかは、どうかかわりがあるかをまず、先生に理解させて、どうすればできるかメソッドまで作っていくようなこと
問題の先生を作らない。採用時に適さない先生は採用しない。その前に、大学入試時に切っていく。申し込みで 15%しか入れないし、実践などもたくさんあり、自分たちで自分たちの質を高めている
落ちこぼれを作らないために、予算も対応して、先生を増員している
障害者とともに教育する
教育は教育者だけではなく、福祉関係者と連携している

雑感

教育現場とその指導的機関、福祉の実態とその管理的組織など両方を視察できたが、その立場立場に任されていると言う感じだった。それぞれが機能しやすい感じ。システムがきちんとした役割分担が必要なのではないか。日本はもう少し縦、横の連携が必要だと感じた。

《フィンランドメソッドについて》

前出のように、出かける前に、手にした 1 冊の本によくよく記載されていた。どこの国の人に対しても自分の言いたいことを上手に伝え、その人を理解する能力を身に着けること、グローバルコミュニケーションの確立が教育の原点と述べている。

その方法は――

A j a t u a K a r t t a アヤトオス カルタ

まずテーマを真ん中に書き、その周辺にテーマから連想したことを放射線状に書き込んでいく。これにより、

脳の機能に沿った思考法により脳の働きを最も効果的に引き出すことができる。K J 法とも似ている

M i k s i ミクシ どうして？

意見に常に理由を述べる論理的思考方法、一定のフォーマットに沿って意見を言う。まず意見、次にその理由、またその理由のように、自分の考えを述べ、その理由をつけていく

指定語句での作文づくり

指定の語句を使ってできるだけ短い作文をかくことによる表現力の養成

クラスのリーダーを経験する

リーダーになることを通して、班活動などの基本議論ルールを身につけ、コミュニケー

ション力をたかめる

議論の基本

他人の発言をさえぎらない だらだら話さない

話している時、怒ったり泣いたりしない

わからないことは、すぐに質問する

話を聞く時は、話している人の目を見る

話を聞く時は、ほかの事はしない

最後まできちんと話を聞く

議論が台無しになるようなことは言わない

どのような意見であっても間違いと決めない

議論が終わったら議論の内容の話はしない

フィンランドの教育は

発想力 論理力 表現力 批判的思考力 コミュニケーション力が高い学力を身につける原点なのだ

《最後に》

日本人の思い込みの危険

あの、世界的なノーベル賞の授賞式が行われる市庁舎。その記念ホールのすばらしさ、歴史の深さに感嘆の思いに浸っていたその頃。思いもしないことが起こっていたのです。どこにでも危険は潜んでいる典型なのでしょうか？ホテルのチェックインの午後 2 時前にホテルに到着。明日は帰国というのに、フィンランド航空はストライキ中。情報収集に出かけるべくホテルのフロントで、荷物の預かりを聞いた。「すぐ横の、荷物入れに入れてくれ」とのことでした。鍵もかけてあり、外から開けるときは、フロントに告げて鍵をあけてもらうシステム。私たち 3 人は、何の疑いもなく、その中に 3 つのスーツケースを入れて出かけたのです。観光案内所では、フライトは明日にならなければわからないと言われ、市庁舎へ。2 時少し前。ホテルに帰り、その荷物置き場に。なんと、3 つのスーツケースの影も形もありません。早速マネージャーに。『ホテルの責任ではない』と言うのです。ここを見なさいとドアの裏に書かれた文字を指さしました。確かに、荷物から目を離すな！とは書いてありますが、何のための荷物置き場なのか？ホテルマンが確認していると思い込んでいた私たち。盲点でした。ここでは、荷物と人の一致の確認がされていなかったのです。荷物置き場とクロークの違い。まったくの思い込みでした。警察の事情聴取、マネージャーとの話、ブロークンイングリッシュでしたが、必死の対応をしました。フィンランドで買った、家族へのお土産などなど、すっかりパーでした。次の日、着の身着のまま帰ってきました。(帰国後、保険の適用を受けられ

たのが、不幸中の幸いでした)

教育の先進国の姿に触れ、かなり刺激になりました。人材こそが、国家の宝なのだと思います。安心して長生きできる社会の構築をしなければなりません。時間がありません、急がなければ・・・。

いろいろあり、忘れられない視察となりました。

ヘルシンキ市内視察

1、ウスペンスキー寺院

赤レンガ造りの教会工事中であったため中に入る事はできなかった。北欧最大のロシア正教の教会で 1866 年にロシア人建築家によって建てられた。内部の祭壇付近にはキリスト教と 12 使徒のテンペラ画が描かれていた。

2、ヘルシンキ大聖堂・元老院広場

石畳の元老院を見下ろすように堂々とそびえたっていた。キルル・エンゲル設計によるもの。ルーテル派本山教会 30 年の歳月を費やして完成した。天に伸びる 3 つのドームがあるシンメトリックな外観が美しい。ヘルシンキっ子は大階段に腰を下ろし高台からの眺めを楽しむ。

3、ヘルシンキ中央駅

シベリア鉄道の終点地でもあり国内外の列車が発着している。空港からのシャトルバスや市バスの終着点となっている。駅を取り囲むようにしてレストラン、博物館、美術館が点在している。

4、中央郵便局

中央駅近く、郵便局博物館と繋がっている。サンタクロースの国だけあってサンタクロースの絵葉書、人形などのグッズが数多く売っている。早速、サンタクロースからの「クリスマスカード」を家族へ送った。

5、アテネウム美術館

1750 年代から 1960 年代までのフィンランド美術と 19~ 20 世紀の海外の美術品を展示する国内最大級の美術館。

6、世界遺産スオメンリンナ島

一時代のヨーロッパ要塞建築の代表例としてユネスコ世界遺産に登録された。島の随所に要塞建築の歴史がうかがえる。要塞として防御壁が張り巡らされており、今も大砲、砲台などが散在している。19 世紀に作られた造船所もみられる。この要塞は他と違って、高低のある地形に、しかも複数の島にまたがって建てられたもの。スウェーデン、ロシア、フィンランド 3 国の国防に供された所が特異である。

7、シリアライン

巨大豪華客船は6万トン、世界第2位の大きさを誇る。ヘルシンキ=ストックホルムを15時間で結ぶ。船は2万もの群島の間を進んでいく。船内にはレストラン、バー、サウナ、プール、免税店、カジノ、薬局、おもちゃ売り場などがある。船内に大きな吹き抜けがあり、船の中ではなく1つの街にいるような錯覚を起こした。

ストックホルム

1、市庁舎

スウェーデン人建築家ラグナル・オストベリの設計で1911年から1923年にかけて建てられた。ナショナルロマン様式、北欧中世風のデザインで、宮殿か古城を思わせる。106mの塔、全体を覆う800万の赤レンガ、ゴシックの窓、ビザンチンスタイルの金色の飾り、スウェーデンの代表的建物。室内は事務室、会議室、祝賀室などがある。ブルーホールは庁舎の中でも一番広い祝賀室で、毎年12月10日ノーベル賞の祝賀会場となる。ここには1万のパイプ(138音律)ヨーロッパ1のパイプオルガンが設置されている。市議会は2週間おきの月曜日の夕方市議会が行われる。200席の一般傍聴席が用意されている。ヴァイキング時代の建物のイメージを取り入れた開放的な天井。室内は歴史文化を漂わせる雰囲気がある。

(他 100 のアーチ、オーバーレン、プリンスのギャラリー、スリークラウン、ゴールドンホール)